

パブリックコメント回答一覧

件名「市道 6－10 号歩線（鶴牧東公園沿い遊歩道）街路樹環境更新素案（素案）に関するパブリックコメント」

実施期間 令和 5 年 8 月 14 日（月）～令和 5 年 9 月 15 日（金）

意見件数 16 件（内訳：電子 15 件、FAX 1 件）

No.	ご意見	ご意見への回答
1	<p>この道については以前から通学路の改善要望として、学校を通して伝えていたので、ようやく取り組んでくれるという事で、大変嬉しく思います。</p> <p>夜だけでなく、昼間も暗く、舗装がボロボロで自転車のタイヤがはまったり、子どもが転びやすく、転ぶと酷いケガになるので、本当に嫌でした。</p> <p>最近はこの道を高校生の集団が自転車で下ってくる事も多く、綺麗になれば人通りも増える可能性もあるので、道幅は広い方が良いと思うので、中央部分の植樹は無くても良いのではないかと思います。</p>	<p>安心で快適な通行空間として利用できるように、街路樹を間引いて光が差し込む明るい道とし、舗装の修繕を行って安全に通行できるように整備を考えています。</p> <p>通路を 1 つにするという案は、第 1 回意見交換会の際に 1 つの案として提案させていただきましたが、先人たちが描いた街や貴重な 3 列の並木の景観は大切にしてほしいという意見もあり、街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2 本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装とすることを考えています。</p>
2	<p>無残に変わり果ててしまったレンガ坂のような酷い荒療治だけは絶対にしないでください。今ある素晴らしい緑の環境をできるだけ残し、どうしても手を入れるしか選択肢がない部分だけを手当てして欲しいと切に願います。安直な更新に走らず豊かな自然を残すことを前提としてください。</p>	<p>中央の植樹帯のエンジュは、植栽されてから数十年が経過し、エンジュさび病を発症し、樹勢が衰退しています。現状でも枝や幹が折れており、将来的には倒木の危険性も考えられることから、安全上伐採はやむを得ないと考えています。</p> <p>街路樹に対する市民の意見は多様であり、各々の認識共有や相互の理解を深めることが必要です。これまでのワークショップや近隣住民へのアンケートでは、鬱蒼として暗く、見通しが悪いため通行時に不安を感じる、落葉などの清掃対応の大変さから、間伐を要望する意見も寄せられました。また、多摩市の街路樹管理の現状から、将来的な管理負担の軽減に向けて、今後を見据えた持続可能なみどりを形成するために、緑量を適正化し、メリハリをつけた街路樹管理を行う必要があるため、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>
3	<p>鶴牧第 3 公園側からアクセスすると、広い道だったものが該当箇所に来ると暗い道になります。</p> <p>また、通行帯が二本の細い道に別れることから、歩行者同士の行き交いに抵抗を感じます。自転車との行き交いはさらに危険を感じます。</p> <p>さらに、特にこの辺りは夕方以降急に人通りが減る箇所であり、不審者出没もあることから以下の通り提案致します。</p>	<p>通路を 1 つにするという案は、第 1 回意見交換会の際に 1 つの案として提案させていただきましたが、先人たちが描いた街や貴重な 3 列の並木の景観は大切にしてほしいという意見もあり、街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2 本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装としてい</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・通行帯は一本の広い道とし、間の植樹帯は失くす ・植樹は低木のものを増やし、街灯や周囲から通行帯が見えやすいものとする 	<p>ます。</p> <p>新植する樹種は、見通しや防犯上の観点からも、高木の中でも樹高の低いライラックを考えています。</p>
4	<p>初めに、「街路樹環境更新素案」に記載されている図面の中で、標準断面図は極めて小さく、詳細は分かりにくい。拡大鏡を用いても詳細が見えない。市検討委員会の本気度を疑う。</p> <p>1) 人と車椅子の通行を分離する必要性は全くない。混在で良い。</p> <p>2) 提案書提示の車椅子の通行路を自転車専用にする。</p> <p>3) 自転車専用路は2車線として、対向車の通行が可能な幅員とする。</p> <p>4) 自転車専用路は、ママチャリを主たる車両として、高速走行可能なサイクリング車の通行は禁止する。</p> <p>5) 照明灯の高さを現状の高さより低くして、樹木の邪魔にならないようにして、足元を照明できるようにする。</p> <p>6) ベンチの設置を行う。</p> <p>以上</p>	<p>閲覧環境が分かりませんが、公式ホームページ上は、PDF形式でデータを貼り付けてあり、必要に応じて拡大することも可能となっています。</p> <p>1) について</p> <p>街路樹環境更新素案の標準断面図では、約2.5mの幅員を確保することにより、車椅子2台でもすれ違い通行できるということを示すためのイメージ図になり、歩行者、車椅子、自転車は混在して通行する考えになります。</p> <p>2)、3)、4) について</p> <p>遊歩道の通行空間における歩行者と自転車の通行については、レンガ坂での社会実験などで段階を経て市民の皆様と一緒に意見交換を進めながらルール作りを検討していきます。自転車は道路交通法上、軽車両として位置づけられており、歩行者が優先となりますので、引き続きルールを守って走行するよう啓発活動を進めていきます。</p> <p>5) について</p> <p>街路灯については既設のままとして考えており、街路樹を間伐することで街路灯の光を遮るものを少なくして、明るい遊歩道となるよう考えています。</p> <p>6) について</p> <p>ベンチの設置位置は、通行者や公園利用者が木陰で休憩できるよう公園側や公園内にも設置し、ベンチ周辺には雑草が生い茂らないよう土系舗装とし、利用に際しての配慮を検討してまいります。</p>
5	<p>1. 両脇のシラカシの間伐は、反対</p> <p>今後想定される温暖化による夏場の高温対策に逆行する施策だと思います。現在は、樹木の葉による日影ができており駅方面から登ってきてほっとする日影になっています。レンガ坂は、木を切ってしまう灼熱坂と化していますが、この道を灼熱坂にするわけにはいきません。木を間引きしても日影はできると反論されるかもしれませんが、これから続くであろう猛暑、酷暑に対応するにはしっかりした日よけを残しておくことは、次の世代への贈り物になると思いま</p>	<p>1. について</p> <p>街路樹に対する市民の意見は多様であり、各々の認識共有や相互の理解を深める必要があります。これまでのワークショップや近隣住民へのアンケートでは、鬱蒼として暗く、見通しが悪いため通行時に不安を感じる、落葉などの清浄対応の大変さから、間伐を要望する意見も寄せられました。また、多摩市の街路樹管理の現状から、将来的な管理負担の軽減に向けて、今後を見据えた持続可能なみどりを形成するために、緑量を適正化し、メリハリをつけた街路樹管理を行う必要があるため、ご理</p>

	<p>す。</p> <p>2. 通路空間 1.5mを 2.5mに拡張する件は、賛成</p> <p>3. 舗装について</p> <p>現状、ざらざらした面で若干歩きづらい感じもありますが、逆に自転車はスピードが出しづらく歩行者の安全に役立っているのではないかと思います。自転車事故も考慮した舗装を考えてください。</p> <p>4. 集合住宅の出入り口の拡張については疑問</p> <p>更新素案図では、かなり広く広げる案になっていますが、その必要があるのでしょうか。公園内の小道が連続して道路と接続しているほうが、違和感がないと思います。拡張することで、樹木、緑地が減少することには疑問を持っています。図面では、樹木 F34、F44、F50 が、住宅側出口の真ん中であって邪魔であるような書き方をしていますが、実際は出口の脇、あるいは5分の1ぐらいの位置にあり樹木を伐採して広げる必要もないと思います。住宅の住民の意見も広く聞いてください。なお、図面は正確に書いてください。樹木の伐採やむなしと思わせるような図面の書き方は判断を誤らせることになります。</p> <p>5. 中央の樹木の植え替えは賛成</p> <p>6. ベンチ設置について</p> <p>現在も朽ちかけたベンチがありますが、利用状況は、どうだったのか確認が必要ではないでしょうか。手荷物をちょっと置いたり、荷造りするような場所が必要かもしれませんが、ベンチは道路わきではなく公園内に設置したほうが利用価値があると思います。</p>	<p>解いただきますようお願いいたします。</p> <p>2. について</p> <p>街路樹環境更新素案に賛同する意見として承ります。</p> <p>3. について</p> <p>現在この路線の通行空間は、経年劣化により、舗装が傷んでおり、通行されている方をはじめ、近隣住民や周辺の小学校などから通行時の安全のために舗装の補修要望が寄せられているため、今回の街路樹環境更新に合わせて、舗装補修も行います。通行者にとって、安心・快適な通行空間とできるように整備を図ってまいります。</p> <p>4. について</p> <p>いただいた意見を参考にし、集合住宅や公園の出入りの動線は集合住宅の通路と同じ幅員で既存の植樹帯を分割し、すれ違い時の滞留スペースとしての利用や植樹帯を途切れさせることで、街路樹をなくして圧迫感を解消したり、明るく見通しが確保できるような空間とする案として調整させていただきます。図面の樹木位置については、次回ワークショップで掲示させていただく資料では、改善させていただきます。</p> <p>5. について</p> <p>街路樹環境更新素案に賛同する意見として承ります。</p> <p>6. について</p> <p>過去のワークショップや近隣住民のアンケートの結果では、ベンチは設置してほしいという意見が多数寄せられました。現状のベンチは植樹帯内にあり、雑草等が生えて利用しづらい環境であるため、街路樹環境更新素案ではベンチ周辺は土系舗装し、利用しやすいように改善していきます。また、ベンチの設置位置は、通行者や公園利用者が木陰で休憩できるよう公園側や公園内にも設置し、ベンチ周辺には雑草が生い茂らないよう土系舗装とし、利用に際しての配慮を検討してまいります。</p>
6	<p>時々ですが、市道6-10号歩線を歩くことがあります。街路樹の生育が不健康に思われて、気になっておりました。が今回環境更新の計画があることを知り、意見を言わせて頂きたく応募致します。両側の歩道の幅が異なっていることに、気が付かないでおりました。そこを歩いていた時間の関</p>	<p>通行空間の幅員は、シラカシの生育スペースを確保しつつ、歩行者、車椅子、自転車がすれ違いうことが出来るよう考えています。集合住宅や公園の出入りの動線は集合住宅の通路と同じ幅員で既存の植樹帯を分割し、すれ違い時の滞留スペースとしての利用や植樹帯を途切れさせることで、街路樹をなくして圧迫</p>

	<p>係もあつてか、すれ違う体験をあまり経験しなかった事もあつたのかもです。素案によりますと、今までよりも歩きやすくするとの事。であるのならば、住宅地への交差路で急に道幅を変えるのは、車道の交差路での道幅の違いを鑑みれば、交通渋滞の一つの原因とかがえられるので賛成しかねます。また、樹木の一部を伐採したり間隔を広げるのは、真夏の日陰の減少になりますのでもう少しいい案をお考えいただきたいです。高齢者のフレイル防止に取り組んでいる多摩市です。折角ですから市民の税金を有効に使って頂きたいものです。よろしくお願い致します。</p>	<p>感を解消したり、明るく見通しが確保できるような空間とする案として調整させていただきます。</p> <p>街路樹に対する市民の意見は多様であり、各々の認識共有や相互の理解を深める必要があります。これまでのワークショップや近隣住民へのアンケートでは、鬱蒼として暗く、見通しが悪いため通行時に不安を感じる、落葉などの清浄対応の大変さから、間伐を要望する意見も寄せられました。また、多摩市の街路樹管理の現状から、将来的な管理負担の軽減に向けて、今後を見据えた持続可能なみどりを形成するために、緑量を適正化し、メリハリをつけた街路樹管理を行う必要があるため、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>
7	<p>①素案は立派過ぎる。もっと簡素に、費用をかけない方法を考えてほしい。例えば、下記1－4などの歩道は特に問題はない。もちろん路面の補修や植栽の手入れ・植え替えなどが行われていると思う。6－10号歩線もこれらと同様でよい。特に通行量が多いとは思えないので、通路空間は2つ要らない。1つでよい。倒木のリスクがあるならエンジュを除去する。近隣住民の意向次第だが、ボランティアを募って花壇を設けるのも良い。</p> <p>鶴牧周辺の歩道の例</p> <p>1 はなみずき橋からエステート鶴牧5を貫けて鶴牧第2公園に至る歩道</p> <p>2 鶴牧第2公園から南鶴牧小学校グラウンド前を通ってまろにえ公園に至る歩道</p> <p>3 まろにえ公園からホームタウン鶴牧6の西側を通り鶴牧西公園に至る歩道</p> <p>4 宝野公園とタウンハウス落合5の間の歩道</p> <p>②この歩道がなぜ改善モデル路線に選ばれたか疑問である。上記に例として挙げた歩道に比較して、利用者数は少ないように思う。更に、鶴牧東公園と一体化した領域なので、歩道としてよりも、公園の一部として考える方が良い。普通の歩道なら両側は建物があり、両側の植栽(植木)は意味があるが、6－10号歩線の西側は公園になっている(むしろ公園の中の歩道と言う方が適切)。東側(グリーンメゾン鶴牧</p>	<p>①について</p> <p>今後、街路樹は更なる大径木化や老木化、枝葉の繁茂による、管理費用が増加することが予想されます。</p> <p>樹高が低く管理しやすい樹種への変更や間引くことによる街路樹環境更新の初期コストは、高額になりますが、今後剪定にかかる費用の削減など、将来的な管理コストの低減により、次世代の方々への負担を少しでも小さくするよう考えています。</p> <p>通路を1つにするという案は、第1回意見交換会の際に1つの案として提案させていただきましたが、先人たちが描いた街や貴重な3列の並木の景観は大切にしてほしいという意見もあり、街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装とすることを考えています。</p> <p>多摩市には、植栽空間について、市民及び団体が道路施設等の里親としてボランティアで管理するアダプト制度があります。意見交換会の中でもアダプト制度に協力していただける声もあり、引き続き、この制度を活用していただき皆さんと一緒に、道路美化活動に取り組んでいこうと考えています。</p> <p>②について</p> <p>この路線が改善モデル路線に選定された主な理由として、樹木の衰弱の兆候の有無や樹冠の大きさ、課題の多い樹種であるかななどの評価項目の数が他の遊歩道より比較して多かったこと、また通学路への配慮が必要であることが挙げられます。</p> <p>街路樹に対する市民の意見は多様であり、各々の認識共有や相互の理解を深める必要があります。これまでのワークショップ</p>

	<p>側)だけにきちっとした樹木を植える。公園側は公園とのつながりを考えて樹木・植栽を配置すべき。現素案では公園との繋がりが考慮されていない。</p> <p>③パブリックコメントの様式について</p> <p>文章だけでなく写真や図も使える様式にしてほしい。上記では歩道を言葉で説明したが、図(地図)が使えれば直ぐに特定できる。</p>	<p>や近隣住民へのアンケートでは、鬱蒼として暗く、見通しが悪い ため通行時に不安を感じる、落葉などの清浄対応の大変さから、間伐を要望する意見も寄せられました。また、多摩市の街路樹管理の現状から、将来的な管理負担の軽減に向けて、今後を見据えた持続可能なみどりを形成するために、緑量を適正化し、メリハリをつけた街路樹管理を行う必要があるため、ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>③について</p> <p>今後パブリックコメントの際には、皆さんが使用しやすい様式を作成するように検討します。</p>
8	<p>基本的には良いと思われます。シラカシの間伐、槐の伐採後の植栽、緑空間が保たれ気持ち良い空間になると思います。</p> <p>気になった点は、土系舗装がイメージしにくいことです。</p> <p>今回の更新案に伴って気になることがあります。それは隣接する鶴牧東公園の雑草が繁茂している広場と一体的な管理がなされないと快適な遊歩道にならないし、公園の利用の促進も図れないと思います。</p> <p>そのため緑道と公園広場の一体的な管理の検討をお願いいたします。そうすると通称お山の公園と広場と緑道が有機的な空間となり、伸び伸びとした空間で利用しやすくなります。</p>	<p>土系舗装については、次回意見交換の際は、分かりやすい資料となるように工夫させていただきます。</p> <p>また、公園管理と道路管理では条例及び規則によって各部署の担当業務が定められております。一体的に管理をすることは難しいですが、今後も道路交通課と公園緑地課で横の連携を図り、利用する方々が快適に過ごせるような空間として整備できるように、努めて参ります。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・低い樹木で花が咲くものがあって嬉しい。 ・既存のエンジュは樹勢が衰え枯れが広がって危険なのと病気が広がるので伐採になって良かった。 ・既存のシラカシを間伐して空間が広がるので嬉しい。残りのシラカシを大きく育てて欲しい 	<p>街路樹環境更新素案に賛同する意見として承ります。</p> <p>今回の街路樹環境更新素案では、現状よりも通行空間を広げることで、安全に通行できるように改善し、樹木が生い茂り、暗がりが出てきていることを間伐により解消し、見通しの良い、光が差し込む明るい遊歩道として改善することで、安全・安心な歩行空間として整備することを考えています。</p>
10	<p>いつも銀杏並木を楽しませてもらっております。</p> <p>木の勢いが劣って来ていると有りますが、極力伐採せず、現状を維持出来たらと考えます。昨今の温暖化、CO2 問題等を考慮してほしいと希望します。中央図書館前の並木も倒木となり日陰のない通りは足早に歩きたくなるほどです。</p> <p>行政としてお考えが有るかと思存しますが、伐採してしまえば良いとは考えにくいです。</p>	<p>中央の植樹帯のエンジュは、植栽されてから数十年が経過し、エンジュさび病を発症し、樹勢が衰退しています。現状でも枝や幹が折れており、将来的には倒木の危険性も考えられることから、安全上伐採はやむを得ないと考えています。</p> <p>街路樹に対する市民の意見は多様であり、各々の認識共有や相互の理解を深めることが必要です。これまでのワークショップや近隣住民へのアンケートでは、鬱蒼として暗く、見通しが悪い ため通行時に不安を感じる、落葉などの清浄対応の大変さから、間伐を要望する意見も寄せられました。また、多摩市の街</p>

		路樹管理の現状から、将来的な管理負担の軽減に向けて、今後を見据えた持続可能なみどりを形成するために、緑量を適正化し、メリハリをつけた街路樹管理を行う必要があるため、ご理解いただきますようお願いいたします。
11	<p>エンジュは枯れ枝が多かったので、伐採で危険が無くなるので良かったです。</p> <p>シラカシも樹冠が重なっているので、間伐で快適な歩行空間となると思います。</p> <p>新しくライラックが植わるとのことで、お花が綺麗なので楽しみです。シラカシは樹高が高くなるので、真ん中の列は中木などの低目な樹種がいいと思っていました。</p> <p>既存のシラカシと新植のライラックを互い違いにしても良いのかなと思いました。</p> <p>また、植栽帯の形が直線的なので、端部は丸みをつけても良いのかなと感じました。</p>	<p>街路樹環境更新素案に賛同する意見として承ります。</p> <p>これまでの意見交換会やアンケートの結果では、花が咲く樹種への更新を望む声があり、市役所としても通行者が季節を感じ楽しむことができるような樹種であり、土壌調査の結果からこの路線の土壌に合う植栽候補として、樹木医の先生に提案していただいた樹種の一つでもあることから、ライラックを植え替え樹種と考えています。</p> <p>いただいた意見を参考に植樹帯の端部について検討いたします。</p>
12	<p>多摩市気候非常事態宣言を反映する姿勢が必要かと思えます。また、子育て中の方や、高齢者の閉じこもり予防、ウォーキングを推進している健幸まちづくりなど、市の基幹政策を具現化する機会と思いますが、ワークショップで語られた中から、そうした意見は汲み取られていないように感じます。</p> <p>一地域の遊歩道更新ではありますが、第6次多摩市総合計画策定が進む今だからこそ、優先的に取り組むべき課題を全庁あげて具現化することが、モデル路線に求められていると思います。</p> <p>風通し、緑陰、歩道の照り返しなどは、特に異常気象下での具体的な対応策かと思えます。環境政策課、地球温暖化対策担当、子育て支援課、介護保険課など、各課の意見を募り、今後の多摩市に必要な総合的な取り組みにしてほしいと思います。</p>	<p>多摩市気候非常事態宣言では、生物多様性の大切さを共有し、その基盤となる水とみどりの保全を積極的に推進しています。街路樹環境更新素案では、みどりの保全と遊歩道の安全性を確保するため、倒木の恐れがあるエンジュは伐採して新しい樹種に植え替えてみどりは保全していこうと考えています。</p> <p>健幸まちづくりの観点からも、皆さんが歩きたくなる安心・快適な歩行空間となるよう、両側のシラカシを間伐して暗がりを解消させて、遊歩道を明るくし、将来を見据えた持続可能なみどりとなるよう考えています。</p> <p>また、土系舗装は雑草対策にもなり、自然の砂などを結合した舗装で保水性を有しているため、ヒートアイランド現象の緩和に寄与するなど、環境に配慮した舗装材として取入れることを検討しています。</p> <p>引き続き、関係課と情報共有しながら改善モデル路線での改善策検討及び他路線への展開を進めていきます。</p>
13	<p>全体として市民との協働の会の意見も反映していただいているかと思いました。気がついたことをテーマごとに書いてみました。</p> <p>1. 市民が誇る、美しいみどりの「みち」</p> <p>3列の並木についてまろうじて残していただいているかと思いました。気になったのは新植にライラックを選んで</p>	<p>1、3について</p> <p>これまでの意見交換会やアンケートの結果では、花が咲く樹種への更新を望む声があり、市役所としても通行者が季節を感じ</p>

<p>おられることでした。対象区間はゆったりとのんびり散策する山の辺の道のような雰囲気のところですよ。山の辺の道の中をゆったりと歩く生活道ではないでしょうか。その意味でライラックは都市的な華やかな雰囲気を持つ木だと思います。華やかさより落ち着いた雰囲気が望ましいところではないでしょうか。エンジュが生理生態的にニュータウンの環境に合わなかったとしても30年以上にわたってこの緑道の雰囲気を作ってきました。原設計者がエンジュの木に託した設計理念は踏襲されるべきではないでしょうか。ここでもやはりレンガ坂の時にも見られた市民が長年育ててきた「愛着と誇り」への配慮が軽視されているのではないのでしょうか。そもそもエンジュがどのような経緯で選ばれたのか調べて欲しいです。その設計思想や理念は結果として生理生態的に合わなかったとしても大切にすべきだと思います。30年以上もかかって市民が馴染んできた風景の質は簡単に壊すべきでないと思います。</p> <p>2. 安全快適な歩行空間としての整備を図る</p> <p>改善点の中に新たに植栽する木は樹高が高くならずとありますが、ということは大きな緑陰を生み出さないということですが、この夏の暑さの経験からも、温暖化が進むにつれ</p>	<p>楽しむことができるような樹種への変更を考えています。</p> <p>ライラックは、耐寒性が強いので、比較的冷涼な地域に植樹されている印象が強い樹種になります。しかし、都立公園でもライラックが育ち、花を咲かせている場所があり、土壌や植える場所、サイズなどを工夫することにより、街路樹として成立する樹種だと考えています。また、土壌調査の結果からこの路線の土壌に合う植栽候補として、樹木医の先生に提案していただいた樹種の一つでもあることから、ライラックを植え替え樹種と考えています。</p> <p>この地区の緑化基本設計報告書（日本住宅公団南多摩開発局、社団法人日本造園学会発刊）では、この路線は緑陰樹帯域とされ、緑に包みこまれた空間を造出することを目的として緑化が図られています。この緑陰樹帯域での落葉樹の有力な樹種として、当時はエンジュが挙げられていたようですが、具体的にエンジュが選ばれた理由については、記載はなく、街路樹として実績がある樹種が採用されたと考えています。</p> <p>中央の植樹帯のエンジュは、植栽されてから数十年が経過し、エンジュさび病を発症し、樹勢が衰退しています。現状でも枝や幹が折れており、将来的には倒木の危険性も考えられることから、安全上伐採はやむを得ないと考えています。</p> <p>萌芽更新は、森林や里山などで樹林全体を若返らせていくために用いられる緑地保全の方法の1つになり、かつては薪や炭に利用される細い材をたくさん生産するのに適しているため、里山管理の手法として多く行われていました。萌芽更新させるためには人工的に手を加え木を伐採し、日光が林に入ることによって次世代の樹林に世代交代し、大径木化や老木化による倒木等のリスク回避に寄与していました。今回伐採するエンジュについては、病を患い、樹勢が弱っている状態であり、土壌環境にも適しておらず安全性にも問題があります。また、道路は、歩行者等の通行支障とならないよう安全に通行する空間の制約がある中で維持管理していく必要があります。都市の一部としての機能や役割を有する街路樹には萌芽更新という手法ではなく街路樹を安全に維持管理できる樹種に更新する手法で考えています。</p> <p>2. について</p> <p>今回の街路樹環境更新素案では、両側にシラカシがあるため、緑陰は確保されると考えています。中央の植樹帯を高く生長する樹種にすると、街路灯支障などによる更なる暗がりの発生や</p>
---	--

<p>て大きな緑陰は夏の安全な歩行空間を確保するためには益々求められるようになってくると思います。大きな緑陰を失ったレンガ坂のこの夏の'灼熱環境は皆さんが目指した安全で快適な歩行空間だったのでしょうか。レンガ坂の黄色い緩衝帯は暫定ではなく最終形なのだと聞きました。私にはあの黄色い緩衝帯は「レンガ坂の改修計画は失敗でした、この道は危険です、照明柱に激突の危険があります」と自ら言っているように思えます。竣工時にすでに失敗だったと認めている稀有な例ではないでしょうか。レンガ坂改修の最大目的は安全安心な歩行空間ではなかったのですか。今回の計画でも安全で快適な歩行空間をうたわれています。ぜひ、今度こそ本当の意味での安全と快適を実現してください。</p> <p>3. 持続可能なみどりを育てる</p> <p>新植されるライラックについて、この木は基本的に冷涼な地域に適した木ではないでしょうか。エンジュの伐採が環境条件に合わないことを理由にされているのですが、果たしてライラックがこの地の環境条件に適しているのでしょうか。特にこの夏の暑さでもわかったように東京の夏の気候はすでに亜熱帯化していると言われています。10年後の暑さを想像した時、果たしてライラックは持続可能な木と言えるのでしょうか。また本気で持続可能なみどりとおっしゃるならば、街路樹の萌芽更新について検討されたのでしょうか、まさに持続可能、循環するみどりといった時、これほど理にかなった方法はないと思います。最近の市政ではとても崇高な理念が唱えられます。図書館の「知の地域創造」レンガ坂の「生まれ変わるレンガ坂」そして今回の「持続可能なみどり」全てとても崇高な理念です、でもそれらは実現されているのでしょうか、私には単なる言葉遊びにしか思えません。実現できないのであれば、初めからそのような崇高な理念など掲げないで欲しいと思います。</p> <p>4. みんなが参加・協力し、みどりを育てる</p> <p>市民が愛着を育て、誇りを持てるみどりが存続するのならば、市民は喜んで参加し、協力し、みどりを育てると思います。私も20年近く道路交通課のアダプト制度のもとみんなが参加・協力し、みどりを育てる活動をしてきました。ただこのところの市のみどりの施策を見ているともう、そんな意欲はすっかり失せてしまいつつあります。多摩中央</p>	<p>根上がりによる危険なども懸念されることや今後の維持管理のしやすさを考えても樹高が低いものへの樹種変更を考えています。</p> <p>多摩市街路樹よくなるプラン改定版における、安心・快適な通行空間として整備を図ることの具体的な取組みとして、施設の損傷を及ぼす樹木については伐採、間引き、剪定等を実施し、通行支障、防犯上の問題を誘発し得る樹木について、伐採、間引きなどを実施することが挙げられます。これらの取組みにより、車椅子やベビーカーも安心して通行できる、見通しを良くして運転者、歩行者の両方が安全に通行できる、夜も安心して通行できるようなみちづくりを目指しています。</p> <p>今回の街路樹環境更新素案では、現状よりも通行空間を広げることで、安全に通行できるように改善し、樹木が生い茂り、暗がりが出てきていることを間伐により解消し、見通しの良い、光が差し込む明るい遊歩道として改善することで、安全・安心な通行空間として整備することを考えています。</p> <p>4. について</p> <p>日頃より、多摩市のアダプト制度を活用し、道路美化活動にご協力いただきありがとうございます。</p> <p>みんなが参加・協力し、みどりを育てていけるように市では、引き続き、ボランティア保険への加入や春、秋の2回の花苗の配布、清掃用具等の貸与、アダプトサイン看板の設置などの支援を行い、たま広報や市の公式ホームページ上でアダプト制度</p>
--	---

	<p>公園を壊しての図書館建設、みどりのホロコーストとも言えるレンガ坂の改修計画、とても酷な言い方かもしれませんが、車両販売店の街路樹伐採などということが起こってしまうのも、あまりにも簡単に行政の手によって木が伐られてしまうことも関係ないとは言えないのではないのでしょうか。行政が率先してみどりを愛し、育もうとするならば市民は喜んで参加・協力し、みどりを育てようと思います。掛け声だけでなく、みんなが参加・協力し、みどりを育てたくなるみどりの骨格を作ってください。お願いします。</p> <p>色々苦言を呈してきましたが、ただ最後に今回感じた微かな希望について書かせてください。素案のイメージスケッチを見せていただきました。決して上手なスケッチではないのですが、職員の皆さんが悩みつつ考えつつ作られたのだなあを感じました。レンガ坂改修計画の図画を初めて見た時、これは小学生が書いたものなのかと冗談ではなく思いました。そこにはどんな悩みも考え抜かれた形跡をも感じることができませんでした。適当にそこら辺りにあった定規とコンパスを使って何も考えずに描いた図面と感じました。それに比べて今回のスケッチは稚拙ではあるけれど、考えられ悩まれた形跡を感じました。皆さんのお仕事は大変なお仕事だと思います。もっともっと悩み、苦しみ考えて欲しいです。そこからしか一歩も進め出せないと思っています。皆さんお仕事は Civil Engineering まさに「市民のための工学」です。あらゆる工学の中でも最も上位に位置するものだと思います。誰もが愛着を持ち誇りが持てる街を作ってください。どうぞよろしくお願いします。</p>	<p>を活用した道路の清掃美化活動の普及・啓発を促進していきます。</p> <p>多摩市には街路樹が多く植えられており、住宅に近接して越境や落葉で市民生活に影響を与えていたり、枯れていたり、土地に適さない樹木が植えられていることで倒木の危険がある樹木もあり、市民生活の安全・安心を守っていくためには、伐採という手法を取るほかに場合があることはご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>引き続き、道路交通課では、市民の安全を第一に考え、道路改修や街路樹環境更新に取り組んでいきますのでご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>
14	<p>「市道 6－10 号歩線は、改善手法の汎用性の高い路線として、今後の当該路線全体への展開を考えている」と事業説明にあります。</p> <p>これからの 50 年後を考えて、道路交通課の管轄である多摩市内全ての歩行者専用道路や道路の街路樹についてどう考えたら良いか？明確に言葉で伝える事は難しいです。そこで、まず私が尊敬する建築家のエッセーを引用させてください。建物について書かれたものですが、私は多摩市の緑に置き換えられると思います。</p> <p>~~~~~</p> <p>建築家のブログ 建築家の先生に学んで</p> <p>ある建物を直す時、前よりも良いものにしないと意味がな</p>	

<p>い。設備的な改良は知恵を働かせれば出来る。使い勝手も改善できる。一番難しいのが景色の一部としての「かたち」である。三月堂のように、なかなかうまくいかない。増築しないで減築して成功することもある。建築家がやった三重県の私立高校が良い例である。建て直す予算以下で使い勝手も性能も上がり、トイレもきれいになり、省エネルギーもできるようになった。つぎはぎのようできて、不思議と更に面白くなる偕楽園の好文亭のようなものもある。なによりも肝心なのは、直すということは創ることと同じだということ。新しい「かたち」を創ることの喜びを見つけることができれば正解である。建築史の先生がつくられた言葉「残すことはつくること」が達成できなければ意味がない。</p> <p>~~~~~引用ここまで~~~~~</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一番難しいのが景色の一部としての「かたち」である。 ●「残すことはつくること」が達成できなければ意味がない。 <p>この 2 つのフレーズが、今回求められている計画の基本であると考えます。</p> <p>1、計画全般について</p> <p>三列並木を残したのはたいへん良かったと思います。アスファルト舗装、土系舗装 (25cm) も主張せず好感が持てます。アスファルト道で、子どもたちと” みちあそび” がしたいです。</p> <p>2、エンジュ伐採後のライラックについては疑問です。</p> <p>街路樹は、歩行者に快適な緑陰を提供すると同時に、街の顔となる重要な施設です。</p> <p>住宅地の緑、公園の緑、それを結ぶ緑道の緑、自然歩道の緑、幹線道路の緑、そして多摩丘陵の緑。多摩ニュータウンはくまなく緑のネットワークで包まれています。歩行者専用道路は、公園や学校、センター地区と住まいを結ぶ快適な緑道で、緑陰は休憩や語らい、遊びの場としても活用されています。ニュータウンの歩行者専用道は特殊な道（主張する道）ではなく生活道路です。</p> <p>道路のアダプトをしています、台風倒木後のツリーサー</p>	<p>1、について</p> <p>街路樹環境更新素案に賛同する意見として承ります。</p> <p>街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装として安全・安心な通行空間として整備することを考えています。</p> <p>2、について</p> <p>これまでの意見交換会やアンケートの結果では、花が咲く樹種への更新を望む声があり、市役所としても通行者が季節を感じ楽しむことができるような樹種への変更を考えています。</p> <p>街路樹環境更新素案で植え替え樹種としたライラックは花が咲く樹種と言っても、一年中花が咲いているわけではなく、多摩市に多く植えられている桜やハナミズキのように、主張しない背景としての街路樹になると考えています。</p> <p>また、土壌調査の結果からこの路線の土壌に合う植栽候補として、樹木医の先生に提案していただいた樹種の一つでもあることから、ライラックを植え替え樹種と考えています。</p>
--	--

<p>クルに萌芽更新の樹木が育ち、宿根草やハーブ園サークルができるのも私は嫌いではありません。アダプトグループや街ゆく人の楽しみにもなっています。しかしそれが受け入れられているのは、周りに基幹既存樹がある中の一ヶ所、2ヶ所だからであって、主張し過ぎない事が大事だと考えています。</p> <p>緑道の樹木はあくまで背景としての並木であることが大事で、今回の実験を基に街中の歩行者専用道にライラック並木（または各種花の咲く並木）が溢れるとしたらここはこの街？多摩市の個性って何？となります。</p> <p>メインは個性の無い並木として、シンボリックに（例えば実の成る木を）1本植えるとか歩行者専用道路のアダプトをしてもらいそのグループの希望で1本だけ植えるなど、市民が関わる余地を残したらいかがでしょうか。</p> <p>3、ベンチについて</p> <p>40km 超の歩行者専用道は健康志向で歩く人が増えています。私の職場がある商店街の歩行者道にもベンチがありますが、『これほど使われるのか。』と驚くほど使われています。ちょっとひと休み、お弁当を食べる人、学校帰りにおしゃべりと全ての年代の人が利用しています。</p> <p>配置はこれほど密に一列に並べるのではなく、数は同じで、疎にし、背中合わせにしたらどうかと思います。子どもたちや子育て中の仲間、家族はグループで使います。</p> <p>また、排除ベンチを設置するのはやめてください。</p> <p>4、かまどベンチについて</p> <p>多摩ニュータウン内・集合住宅団地に接する歩道のかまどベンチの必要性については疑問です。多摩市の防災計画では、集合住宅の住民は自分の団地に留まる自宅待機になっています。そして、直下型地震が来ても、S57以降の新耐震基準の団地では、たとえ躯体にヒビが入っても、住めない状況にはなりません。戸建住宅に住む人は体育館への避難となると、歩道のかまどベンチは誰の使用を想定して設置するのでしょうか。</p> <p>公園内であるなら近隣市から避難してきた人の為と言えるでしょうが、「新設ベンチなら、かまどベンチでしょ。」と歩道に置くのは短絡過ぎます。</p> <p>以上ですが、歩行者専用道は多摩市の顔となる重要な施設</p>	<p>日頃より、多摩市のアダプト制度を活用し、道路美化活動にご協力いただきありがとうございます。市では、引き続き、たま広報や市の公式ホームページ上でアダプト制度を活用した道路の清掃美化活動の普及・啓発を促進し、アダプト団体の声も取り入れながら、皆さんと一緒に、道路美化活動に取り組んでいこうと考えています。</p> <p>3、4について</p> <p>ベンチの設置については、利用する方はもちろん、近隣にお住まいの方のことも考える必要があります。過去にはベンチを利用する方の視線が気になったり、たまり場となつてごみや騒音の問題により撤去した事例もあるため、遊歩道内に設置するベンチについては、公園側を向き、1箇所に集中しないよう配置することを考えています。</p> <p>また、今回のパブリックコメントで、公園内にベンチを設置した方がいいという意見もいただいているため、公園内には防災に配慮したかまどベンチを設置し、遊歩道内には背もたれ付きのベンチを設置することを考えています。</p>
--	---

	です。 より良い街づくりを応援しています。	
15	<p>遊歩道なのに、植樹帯が左、中、右と3つもあるが、左か右だけで良いと思います。なぜかという、この通行幅だと人2人がすれ違うけっこうなギリギリな幅で、親子や夫婦が手を繋いで歩いてきたり、自転車やベビーカー、車椅子が通ってくるときにぶつかりそうになって危ないし、結局それらを避けようとして、植樹帯のところに結局足を踏み入れてしまうことをよく見ているからです。</p> <p>最近新しくなったレンガ坂のように人が通行出来る幅をより広くとる方が、人々やペットがより移動しやすく、交流も生まれるし街にとっても良いと思います。(レンガ坂の改築がほんと素晴らしい例と思います)</p> <p>また鶴牧東公園も緑がたっぷりなので、遊歩道にそこまで植樹帯は必要ないと思います。</p> <p>よろしくお願いします。</p>	<p>通路を1つにするという案は、第1回意見交換会の際に1つの案として提案させていただきましたが、先人たちが描いた街や貴重な3列の並木の景観は大切にしてほしいという意見もあり、街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装とすることを考えています。</p>
16	<p>多摩郵便局からブリリア多摩センターまでの道のように、道幅が広く明るい遊歩道にしていきたいです。</p> <p>道の中央の植樹帯は無くても良いのではないかと思います。草が生い茂ると道が狭く感じますし、道幅が広い方が夜でも明るく見通しがよく通行しやすいのではないかと思います。</p> <p>現在、植樹帯の中にベンチがありますが、座っている人を見たことがありません。雑草が生い茂るとゆっくり座れる状態にはありませんので、ベンチを設置する際はコンクリート上のほうが利用しやすいと思います。</p> <p>鶴牧東公園沿い遊歩道は、人通りが少ない状況です。通学路でもあり、子供が1人で通行する道です。</p> <p>過去にこの近くで子供達が不審者に遭遇することがありました。</p> <p>遊歩道に防犯カメラの設置や街灯が木の葉に隠れないよう工夫し、夜でも明るい遊歩道にしていきたいです。</p>	<p>通路を1つにするという案は、第1回意見交換会の際に1つの案として提案させていただきましたが、先人たちが描いた街や貴重な3列の並木の景観は大切にしてほしいという意見もあり、街路樹環境更新素案では、ニュータウンで創られた空間を継承しつつ都市のみどりを極力持続させるためにも、2本の通行帯をなるべく安全かつ広く使えるように幅員を広げ、植栽が通行空間にはみ出さないよう植樹帯の縁を土系舗装とすることを考えています。</p> <p>ベンチの設置位置は、通行者や公園利用者が木陰で休憩できるよう公園側や公園内にも設置し、ベンチ周辺には雑草が生い茂らないよう土系舗装とし、利用に際しての配慮を検討してまいります。</p> <p>防犯カメラについては、通学路用として鶴牧東公園内に設置されており、さらに数を増やすことは難しいため、現状の樹木が重複し、暗がりが出てきていることを解消し、路線全体に光が差し込み、明るい遊歩道となるように街路樹の間引きすることを考えています。</p>